

地域デザインフォーラム・ブックレットの刊行にあたって

2000年から始まった、東京都板橋区と大東文化大学の地域連携協定に基づいて実施されている地域デザインフォーラムも今年度で22年目（第9期）を迎えました。この地域デザインフォーラムは、地域社会が抱える様々な課題に対して自治体と大学が共同研究を通じて、メカニズムを研究し、その課題の解決策を提案して地域社会の活性化を目指すことを目標として行われています。

第9期のテーマは「持続可能な開発目標（SDGs）が掲げる持続可能で強靱な都市（まち）づくりのための自治体政策研究」として、板橋区からは幅広い部門の職員5名、大東文化大学からはそれぞれの専門分野の教員8名の合計13名で「防災分野」と「福祉分野」に分かれて2019年～2020年度の2年間で研究を行う予定でした。しかしながら2019年12月、新型コロナウイルス（COVID-19）の拡大により、2020年度は思うような活動ができず、2021年度まで研究期間を1年間延長することになりました。

「防災分野」では、施設・設備や地形などのハード面に加え地域住民の実情も考慮した、複合的な視点に時系列視点も加えた指標を目指して作成しました。「福祉分野」では高齢者と社会のつながりに着目し、健康寿命のさらなる延伸に向けた区の施策を検討しました。

研究をするには非常に厳しい環境の下で、各研究員の方々は、本来の業務に加え、分科会の共同研究を行ってきました。コロナ禍の世界的なパンデミックの状況下、様々な面で制約が入り、計画していた研究活動が大きく妨げられる中で遂行されたと思います。研究員の皆様には改めて感謝申し上げます。

これらの研究活動から得られた新たな知見は、今後の地域社会の体系の構築に少なからず寄与するものと考えます。今後もさらに大きく発展していくことを期待しています。

2022年3月

大東文化大学地域連携センター
所長 鈴木 明